

年頭所感

榎本樹邨名誉会長代行揮毫

中日新聞 令和3年1月1日号より転載

中日会報

公益社団法人 中部日本書道会
編集事務局 名古屋市
〒450-0002 名古屋市中村区名駅二丁目45-19
山ビル8階 C00室
桑電話 (583) 19100
FAX (583) 19100
http://www.cn-sho.or.jp
info@cn-sho.or.jp
印刷 株式会社 荒川印刷

新年のご挨拶

会員の皆さん、明けましておめでとうございます。さて、皆さんはどのような新年をお迎えでしょうか。昨年から新型コロナウイルスの世界的パンデミックは、あらゆる方面に計り知れない悪影響を及ぼしています。我が国も例外ではなく、その勢いは減じておらず、今なお世界中を脅かし続けています。そんな状況下においても私の周囲は幸いにも穏やかな新年を迎えることができました。皆さんがたにおかれましては、この一年が平穏であることを願っております。

新しい生活様式、新しい働き方への発想の転換が必要であろうと思えます。そのような意味でも政治の果たす役目は大変重要であります。おりしも昨秋、日本のかじ取り役である首相が、菅氏に代わりました。米国においても指導者が交代することとなりました。いづれにしても、感染拡大防止と経済の活性化の両立は困難な課題であること言うまでもありません。ともに国民を明るい未来に向けて導いていくべき使命には変わりはないと思えます。私は、政治の第一線からは退いた身ではありますが、注視して行きたいと思っています。

さて、昨年開催の予定であった七十回記念の中日書道展は、感染症対策にしっかりと取り組んで実施の方針と伺っております。成功に導くべく伊藤仙游理事長のもと執行部を中心に、会を挙げて取り組んでいただきたいと思えます。会員の皆さんも一層の協力を支援をお願いいたします。常々私は、書道は日本が世界に誇る芸術であると申し上げております。書道に携わる皆さんにおかれましては、本会の活動とおして、日々の生活にも、こうした自負を持ちつつ精進され活躍されることを願っております。

新年明けましておめでとうございます。会員の皆様には令和三年・辛丑（かのとうし・しんちゆう）の清々しい新年をお健やかに迎えにされたことと心よりお慶び申し上げます。

昨年の年初から始まった新型コロナウイルスの猛威はまだまだ終息には程遠く、本会の様々な行事も中止や延期を余儀なくされておりますが、人間の長い歴史から見ても、近い将来に必ず克服されることと信じております。またこんな時こそ、芸術や文化といった「心」に関することが重要であり、本会の果たす役割も大きいものがあると存じます。



名誉会長 海部俊樹



理事長 伊藤仙游



目次

- 1 海部俊樹名誉会長「新年のご挨拶」
榎本樹邨名誉会長代行揮毫
伊藤仙游理事長「新年のご挨拶」
安藤滴水名誉副会長「年頭所感」
令和二年度 書展の匠展
第二十九回 書展
第三十二回 書道教育研修会
- 2
- 3
- 4 令和二年度第二十四回
書の魅力 公開講座
改組 第七回日展入賞・入選者
第七十回記念中日書道展出品規程（抜粋）
同 日程表
- 5
- 6
- 7
- 8
- 9 二〇二〇年チャリティー愛の募金
募金参加者ご芳名
- 10

さて、本会の今年の事業予定につきましては、コロナ禍による情勢を鑑みながら、事務局一同例年通り開催するべく懸命に努力しております。昨年延期となった第七十回記念中日書道展は愛知県美術館ギャラリーをA室からJ室まで使用して開催、記念展特別企画として「令和を拓く大作書展」も開催する予定でございます。要項等は本号でお知らせしておりますので是非お目通し下さい。本展の開催については、会員の皆様には何かとお世話になることと存じますが、何卒ご協力下さいませますようお願い申し上げます。

本年度残余の事業としては毎年三月に開催しております「中日書初め展」（第七十一回）でございます。これも中日書道展と併せて重要なイベントであり、教育部、褒賞部が中心となり準備を進めております。

また、「理事会」につきましては文書による開催を予定しており、評議員会・講演会・懇親会は中止させていただきますので、何卒ご理解下さいませますようお願い申し上げます。

コロナ禍により事業運営が困難ではありますが、感染症対策を充分執りつつ、できる事業をしっかりと運営してまいります。事務局一同結束して頑張るの皆様のご協力、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

名誉副会長 安藤滴水先生 年頭所感 (新聞掲載)



書道文化の継承

公益社団法人 中部日本書道会

名誉副会長 安藤 滴水

謹んで新年のお慶びを申しあげます。昨年十一月に開催した「書の匠展・寿書展」は久々の

展示会であり力作が並びました。コロナ禍で沈滞気味な風潮の中で開催に英断を下した理事長に拍手を送りたいと思

中日新聞 令和3年1月1日号より転載

本会名誉会長代行

樽本樹邨先生

第六十五回

現代書道二十人展 ご出品

会期 令和三年一月三十日(土)～二月七日(日)
会場 松坂屋美術館(松坂屋本店南館七階)

令和二年度 書の匠展・第二十九回 壽書展

令和二年度 書の匠展・第二十九回 壽書展を終えて

第二事業部長 馬場 紀行

令和二(2020)年は世界史、日本史上で語り継がれるであろう一年となった。二月から俄かに新型コロナウイルスの感染者数が増加し、東海三県でも三月以降の書道界行事は軒並み開催延期中止を強いられ、四月には緊急事態宣言が出され、本会も六月開催予定の第七十回記念中日書道展は次年に延期、オリンピック・パラリンピック大会に合わせた企画展も中止が決定された。そして、その後数か月間は書家のみならず表具店、筆墨店等の書道に携わる関係者は混沌とした中で自粛生活を送った。そんな中、沈滞ムードの書道界に一条の光明を射し示そうと伊藤仙游理事長の発案で十一月開催の壽書展との併催で令和二年度「書の匠展」を新設した。それは、本会名誉会長に名誉会長代行・名誉副会長・常任顧問・顧問・理事・監事の熟達練磨したプロ書家を加えた七十七点と通例の満七十歳以上の本会参与・評議員・正会員・準会員と会員外を対象とした第二十九回壽書展の二三九点を同時展覧することによってベテラン書家から書の



書の匠展会場風景



壽書展会場風景

愛好家の自由闊達な作品まで多種多様、幅の広い作品を広く鑑賞して頂くとうとの企画であった。こと壽書展は眼と手と頭を使う生涯学習という位置づけで、長年書を楽しむでおられる方々の作品も多く寄せられ、公益性の有る催事としてその役割を果たしたと感ずる。また、本年は鑑賞の際に感染防止対策として三密を避け、来場者には必ずマスク着用と消毒済のエンピツでの名前、連絡先記入を徹底した。十一月十日から十五日までの期間中、電気文化会館の位置する名古屋市中区は感染推移には比較的停滞感があり、六六七人の来場者があった。しかし、昨年の壽書展も六六五人で、ほぼ横ばいの来場者数。これはコロナ禍にあつては良しとすべきか否かは判断が難しい。

第32回 書道教育研修会

日時 令和2年10月18日(日)

場所 名古屋国際センター

第三十二回書道教育研修会を

開催して

教育部長 廣澤凌舟

十月十八日(日)名古屋国際センター五階第一会議室において第三十二回書道教育研修会を開催いたしました。今回はコロナ禍の中、定員を減らし(参加者三十名【会員二十七名、一般三名】)十分な感染対策を講じた上での開催となりました。

伊藤仙游理事長の開会挨拶に続き、書道講話では松下英風副理事長が良寛の書について『頭髮蓬蓬耳卓朔』を取り上げて解説され、人を知り実物を見ることの大切さをお話くださいました。

漢字の磯谷凌聴先生は「行草書の楽しみ」と題して、実技講習をしていただきました。前半は、王羲之『蘭亭序』から「羣賢」の二字を臨書。テキストとスクリーンを使って解説をされました。スクリーンには動画が繰り返し映し出され、用筆法や運筆速度などがよくわかりました。その後各々の質問を受けながら巡回指導いただきました。後半は、蘇東坡『黃州寒食詩卷』と米芾『德忱帖』から各



理事長挨拶



少字数講座 波切童州理事



漢字講座 磯谷凌聴理事



書道講話 松下英風副理事長

「二段と違う勉強が出来て良かったです。」と喜んでいただけました。

少字数の波切童州先生は、「象書に挑む」と題して、実技講習をしていただきました。前半は、令和二年六月に安城市市民ギャラリーで開催された「特別展『象書』を極める」の図録をテキストにして、先達(手島右卿、山崎大抱、戸田提山)の作品を解説されました。後半は、先達の優れた作品の中から各自が好みのものを選んで象書に挑戦しました。半切三分の一の用紙に、受講者全員分を波切先生が自ら磨って用意された墨を使って練習しました。巡回指導をされる中で、多くの受講者が先生を取り囲んでの研修会となりました。初めて象書に取り組む方もいらっしゃいましたが、次第に熱を帯び全員が立ち上がって力強く筆を運んでみえました。

最後になりましたが、ご多用中にもかかわらず講師をお務めいただきました先生方、教育部の皆様、に厚く御礼申し上げます。また、コロナ禍の中ご参加いただきました受講者の皆様にも重ねて御礼申し上げます。

(文責…三代雄峯)

令和二年度 第24回 書の魅力 公開講座

令和二年度 公開講座を開催して

研究部長 武内峰敏

な「八分隸」について資料を基に教えていただきました。

漢字・仮名を美しく正しく早く整えて書くという事は、日本人として忘れてはならない基本と思います。

中村立強先生、横井宏軒先生、有意義な講義をありがとうございました。心からお礼を申し上げます。

(文責 浅井禎香)

十一月十五日(日)名古屋電気文化会館イベントホールに於いて「第二十四回公開講座」が講師に顧問の中村立強先生と理事の横井宏軒先生をお迎えして開催されました。新型コロナウイルスで世の中が騒がしい中、七十六名の参加者のもと始まりました。

昭和三十年後半に東京上野美術館で日



第1講座 横井宏軒先生

展をみました。書は漢字・仮名の部門だけと思っていた私は、金子鷗亭先生の「近代詩文書」の部門を知りました。中村立強先生のとにかく勉強する事という講義は、ズドンと体にしみこみました。書が好きで、書を志す者として、文字の成立から中国の歴史まで改めて勉強する事が出来ました。

横井宏軒先生の

講義は、一字の中に横画に大きなうねりを作り、右上方にはねる波磔を持つ、装飾性豊か



第2講座 中村立強先生



スクリーンを使用しての解説



受講風景

令和二年度 第三回理事会

令和二年度第三回理事会は、新型コロナウイルス感染症拡大の状況を鑑み理事会の決議の目的である事項について、内容を示す提案書を発し、当該提案につき全員から書面による同意の意思表示を得ましたので、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第九十六条（定款第三十条）に基づく理事会決議の省略の方法により、当該提案を承認可決する旨の理事会の決議があったものとみなされました。

第一号議案

令和二年度評議員会・講演会の中
止について

第二号議案

令和三年度「世界の書の祭典二〇二一（仮称）」の開催見合わせについて

令和二年度 評議員会・講演会の 中止について

令和二年度評議員会・講演会は、新型コロナウイルス感染症拡大の状況を考慮し、理事会に中止の提案をしてご承認いただき、中止にさせていただきますことになりました。また、評議員の皆様には理事会結果を文書によりご報告致します。なお、同日に実施していただきます祝賀懇談会も中止になります。

誠に申し訳ありませんが、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

改組新第七回 日展 入賞・入選者

日展特選を受賞して



川合 玄 鳳

五十一歳から現在の作品傾向で続けて入選させて頂けるようになりました。

ここで改めて、これ

二〇二〇年、今年は新型コロナウイルスにより、人類は世界的、歴史的にも未曾有の経験をしています。私自身にとっても一大事件の年となりました。

不器用な私が、日展特選を二回

受賞させて頂けると誰が想像したことでしょう。振り返れば日展への出品は、二十代後半迄、

漢字大字で落選し続け、

これではいけない!!若い

内に自分の苦手な文字の

小さい調和体を勉強しよう

と二×八の三行書きに変

更。十回目の挑戦で初入選

できましました。その後五十歳までの入選回数とい



特選 島崎藤村の詩

今後は、さらに気持ちを昂揚させ精進して参ります。どうぞ変わらぬ御指導、御鞭撻を賜りますよう宜しくお願い致します。

〔特選〕

川合 玄 鳳

〔入選〕

愛知県

家田 馨子

野村 清涼

後藤 啓太

佐藤 典子

豊嶋 青岑

水野 美保子

長村 子鴻

堀部 保子

安田 雪篁

加藤 紫雲

鈴木 香鵬

田中 光穂

馬場 紀行

小島 瑞柳

佐々木 宏潤

鈴木 裕子

前田 奈津子

中野 玉英

若杉 美香

板倉 恵子

衣川 彰人

清木 美智子

田口 勢望

三橋 紅月

村瀬 季舟

水野 盛翠

梶山 盛涛

高桑 盛風

山際 雲峰

横井 宏軒

磯谷 凄聴

今田 昌宏

酒井 青桐

高橋 秀箭

今枝 節峰

片岡 秋華

石黒 直子

小坂 克子

松下 英風

齋藤 禹月

小野田 美晴

神谷 緑泉

田中 幸江

村瀬 俊彦

福岡 林泉

香月 久遠

福田 博芳

大池 青岑

岸本 静子

鶴飼 清波

鷺野 紫篁

片山 清洲

坂葉 九塔

千葉 晨翠

戸田 青楓

星野 蘭雪

上倉 積山

高木 紅舟

寺尾 桑林

伊藤 新川

宮田 洋美

清水 春蘭

塚田 俊可

岐阜県

早川 修

吉澤 有岐子

日比野 妃扇

山中 桂山

今井 桃丘

増井 桃希

鈴木 史鳳

白木 紫香

加藤 玉華

小島 岐香

古田 祥扇

三重県

谷 鴻風

荒木 泉蓉

伊藤 玉冰

今村 寿鴻

岡野 敬子

山本 雅月

世古口 大虚

濱口 有以

大嶋 由美子

山中 みね子

小池 玲翠

永平 巳旺子

静岡県

小野 蹊泉

〔〇印は初入選〕

※掲載のお名前は日展ホームページ発表での名簿順となります

第七十回記念 中日書道展 出品規程 (抜粋)

一、会場・会期

▼愛知芸術文化センター 愛知県美術館ギャラリー

依嘱以上の役員(第一～五部全作品)

無鑑査作品(第二～五部全作品、含む第一部受賞作品)・二科推薦受賞作品

令和三年六月 十六日(水)～六月 二十日(日)

▼名古屋市民ギャラリー栄

無鑑査作品(第一部)

令和三年六月 十五日(火)～六月 二十日(日)

▼名古屋博物館

一科作品

令和三年六月 十七日(木)～六月 二十日(日)

二科作品

令和三年六月 二十三日(水)～六月 二十七日(日)

●愛知県美術館ギャラリー

記念展特別企画「令和を拓く大作展」

第七十一回中日書きぞめ展 上位作品(二〇四点予定)を展示

※御長寿作品(米寿)の展示について

米寿の役員作品(無鑑査漢字部を含む)と米寿の一科・二科の作品は愛知県美術館ギャラリー8Fに展示します。又、二科の作品は名古屋博物館の二科の会期にて再度展示します。(P8とP37に詳細を掲示してあります)

※無鑑査の第一部受賞(中日賞・桜花賞)作品は、愛知県美術館ギャラリーに展示します。

※一科推薦受賞作品(第一部～五部)は愛知県美術館ギャラリーに展示します。

一、出品部門

第一部 漢字 第二部 かな 第三部 近代詩文

第四部 少字数 第五部 篆刻・刻字

一、出品資格

十五歳以上(平成十八年四月一日生まれ以前)の者とする。(但し十五歳から二十一歳までの者(平成十一年四月二日生まれから平成十八年四月一日生まれまで)は証明書[免許証、学生証、保険証等のコピー]を提出する。)(ホチキスでは止めないで下さい)

出品は一人一点とし、二部門にわたる出品は認めない。

各資格の出品規程に記載する作品寸法とする。

各資格の出品規程に記載の出品料とする。

一、年会費

正会員の年会費は、本年度出品、不出品にかかわらず納入するものとする。

一科・展覧会役員で二年連続不出品の場合はその資格を失うものとする。

(止むを得ない事情で出品できない時は、その旨本部へ書類を提出すること)

一、審査会場

・電気文化会館(伏見) 5階全フロア

一、審査日程

・二科作品 令和三年五月十四日(金) 午後十二時四十五分～

・一科作品 令和三年五月十五日(土) 午後十二時四十五分～

・特別賞選考 令和三年五月十六日(日) 午前九時三十分～

一、審査員

・特別賞選考委員は、二科審査員・依嘱・無鑑査作品の審査にあたる。(本年度特別賞選考委員・審査員は十頁に記載)

・一科審査員は、一科作品の審査にあたる。

一、褒賞

・二科審査員は、二科作品の審査にあたる。

優秀作品に左記の賞を贈る。(二科佳作、一科秀逸の点数は第五十八回展から適用する)

・二科作品 二科賞(二点)・奨励賞(二点)・佳作(〇・五点)

・一科作品 推薦(三点)・特選(二点)・準特選(一点)・秀逸(〇・五点)

・無鑑査作品 中日賞・桜花賞

・依嘱作品 海部俊樹賞・大賞・準大賞

・二科審査員会員作品 第七十回記念賞

一、昇格規定

各資格において次の基準を満たすとき昇格する。

・一科 昇格 二科において総点三点に達した者

・無鑑査昇格 一科において総点五点に達した者

・依嘱昇格 無鑑査において中日賞、桜花賞を受賞した者

・二科審査員昇格 依嘱において海部俊樹賞、大賞、準大賞を受賞した者

・一科審査員昇格 二科審査員において第七十回記念賞を受賞した者

令和三年六月二十日(日) 名古屋観光ホテル 午後三時半より(予定)

一、祝賀会

新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止と致します。

一、入場料

三〇〇円(小・中・高校生は無料)、資格証により入場できる。

一、書類搬入等

書類搬入はすべて取扱店がいたしますので、出品者は事前に取扱店へ出品票、出品料、協賛費などご提出下さい。

縮切りは四月九日(金)までとさせていただきます。

中日書道展出品の全作品は、整理の都合上取扱店に委託する事とし、個人による書類搬入、作品搬入、搬出は認めませんのでご注意ください。

※正会員(展覧会役員及び一科会員)の年会費も、取扱店へ委託し、書類搬入時に納入していただきます。

一、その他の注意事項

出品票には、住所、姓号、生年月日等が印字してありますので変更や誤りがありませんでしたら赤字で訂正して下さい。

紛失した場合は、公益社団法人中部日本書道会本部へご請求下さい。搬入・搬出については、取扱店に連絡を取ってください。所定の搬出時間を過ぎて搬出されない場合は、作品保管の責任は負いません。

※出品票は、本会会員の方及び会員外で昨年度ご出品の方は、本部から送付したものをご使用下さい。会員以外の方で新規出品の方は、事前に指導者もしくは取扱店を通じて本部へご申請下さい。本部からご本人に出品票をお送りします。(申請最終締切三月三十一日)

※新規出品の十五歳から二十一歳(平成十一年四月二日生まれから平成十八年四月一日生まれまで)の方は、証明書[免許証、学生証、保険証等のコピー]を出品票に添付して下さい。(ホチキスでは止めないで提出して下さい)

出品料・協賛費は理由の如何を問わず返却いたしません。

※本年度不出品者(正会員)の年会費は、後日郵送する振込用紙で納入していただきます。

※授賞式の期日および会場等は予定であり、変更される場合もあります。

第七十回記念 中日書道展出品について(取扱店の皆様へ)

●書類搬入

●所定の出品票を四月十四日(水)に中部日本書道会本部へ書類搬入して下さい。(一科会員・展覧会役員の方については、出品料と共に年会費および協賛費を振込して下さい)
●新規出品の十五歳から二十一歳(平成十一年四月二日生まれから平成十八年四月一日生まれまで)の方は、証明書(免許証、学生証、保険証等のコピー)を添付して下さい。(ホチキスでは止めないで提出して下さい)
●新規出品者は事前に本部に申請していただき、本部より出品票を本人宛お送りします。
●書類搬入がされていない作品は受付けません。

●作品の搬入・搬出について

●個人による搬入・搬出は受付いたしません。作品取扱店にて搬入搬出して下さい。
●二科審・依嘱・無鑑査・一科・二科の裏打ち作品(五月十三日(木)午前十時三十分〜午前十一時四十五分 名古屋伏見 電気文化会館五階に搬入)
●展覧会の搬入・搬出について
●事務分掌P8・9の日程表、搬入・陳列・搬出スケジュールをご確認下さい。

●作品寸法(仕上り寸法)について

●二科・一科・展覧会役員の作品は定められた「仕上り寸法」とし、それ以外は受け付けません。
●審査顧問、一科審査員、二科審査員、依嘱はアクリル入り、無鑑査はアクリルなしの枠張りいたします。
●取扱店番号について
●出品票の取扱店番号欄に左記の番号をご記入下さい。(取扱店にて記入して下さい)

Table with 2 columns: 取扱店名, 取扱店番号. Lists various shops and their corresponding numbers from 11 to 50.

※御長寿作品(米寿)〈昭和七年四月二日〜昭和八年四月一日生まれの方〉(令和二年四月二日〜令和三年四月一日に八十八才になられた方)の展示について(米寿の役員の作品(無鑑査漢字部含む)と米寿の一科・二科の作品は愛知県美術館ギャラリー8Fに展示します。又、二科の作品は名古屋博物館の二科の会期にて再度展示します。
※無鑑査の第一部受賞(中日賞・桜花賞)作品は、愛知県美術館ギャラリーに展示します。
※一科推薦受賞作品(第一部〜五部)は、愛知県美術館ギャラリー8Fに展示します。

〔作品取扱店〕

- List of participating artists and their respective galleries, including names like 浅井梧竹堂, 石黒五雲堂, 伊藤大林堂, etc., along with their addresses and phone numbers.

第七十回記念 中日書道展 日程表

二月 十八日	木	書類発送	中部日本書道会本部	午後一時～午後五時
四月 九日	金	書類 (各取扱店の締切)		
四月 十四日	水	書類搬入 (取扱店) 本部へ	中部日本書道会本部	受付 午後一時～三時 作業 午後四時まで
電気文化会館 東・西ギャラリー・イベントホール 五階				
五月 十三日	木	二科審査員・依頼・無鑑査・一科・二科裏打ち作品搬入		午後一時～午後五時
五月 十四日	金	二科・鑑査		午後十二時四十五分～
五月 十五日	土	一科・鑑査	一部・二部・三部・四部・五部	午後九時半～午後三時
五月 十六日	日	特別賞選考 (二科審査員・依頼・無鑑査)		午後三時～午後五時
愛知芸術文化センター 県美ギャラリー 八階				
六月 十五日	火	審査顧問・特別出品・一科審査員・二科審査員・依頼 無鑑査 (第二部～五部) 及び第一部～五部受賞作品 作品 搬入・陳列		搬入 午前十時～午後五時 (主任以上) 陳列 午後一時～午後五時
六月 十六日	水	※1・2・3・4		午後十時～午後六時
六月 十七日	木	〃		午前十時～午後六時
六月 十八日	金	〃		午前十時～午後八時
六月 十九日	土	〃		午前十時～午後六時
六月 二十日	日	〃		午前十時～午後四時
六月 二十一日	月	〃		午後四時～午後五時三十分
六月 二十二日	火	〃	作品搬出②	搬出 午前九時半～正午
名古屋市民ギャラリー栄 八階				
六月 十四日	月	無鑑査作品搬入・陳列 (第一部)		搬入 午後一時～午後五時
六月 十五日	火	無鑑査作品展示 (第一部) 第一部		陳列 午後一時～午後五時
六月 十六日	水	〃		午前十時～午後六時
六月 十七日	木	〃		午前十時～午後六時
六月 十八日	金	〃		午前十時～午後六時
六月 十九日	土	〃		午前十時～午後六時
六月 二十日	日	〃		搬出 午後四時半～午後六時 ※ただし部屋からの搬出は午後五時～

名古屋博物館 三階				
六月 十六日	水	一科作品搬入・陳列		搬入 午後二時～午後五時
六月 十七日	木	一科展覧会		陳列 午後二時～午後五時
六月 十八日	金	〃		午前十時～午後五時
六月 十九日	土	〃		午前十時～午後五時
六月 二十日	日	〃		午前十時～午後五時
六月 二十一日	月	〃		午前十時～午後五時
六月 二十二日	火	一科作品搬出・二科搬入		一科搬出 午前九時半～正午 二科搬入 午後二時～午後五時
六月 二十三日	水	二科展覧会		二科陳列 午後二時～午後五時
六月 二十四日	木	〃		二科陳列 午後二時～午後五時
六月 二十五日	金	〃		二科陳列 午後二時～午後五時
六月 二十六日	土	〃		二科陳列 午後二時～午後五時
六月 二十七日	日	〃		二科陳列 午後二時～午後五時

※1 記念展特別企画「令和を拓く大作展」
 ※2 第七十一回中日書きぞめ展上位作品 (一〇四点予定) を展示
 ※3 無鑑査の第一部受賞 (中日賞・桜花賞) 作品は、愛知県美術館ギャラリーに展示します。
 ※4 一科推薦受賞作品 (第一部～五部) は愛知県美術館ギャラリーに展示します

■御長寿作品 (米寿) (昭和七年四月二日～昭和八年四月一日生まれの方) (令和二年四月二日～令和三年四月一日に八十八才になられた方) の展示について「米寿の役員の作品 (無鑑査漢字部含む) と米寿の一科・二科の作品は愛知県美術館ギャラリー8Fに展示します。又、二科の作品は名古屋博物館二科の会期にて再度展示します。

- ◆授賞式 六月二十日 (日) 名古屋観光ホテル (予定)
- ◆祝賀会 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止と致します

会員の皆様の温かいお心に感謝いたします。

2020年 チャリティー愛の募金

中日新聞社会事業団に200万寄託
東海テレビ福祉文化事業団に100万寄託
各支部より各県の中日新聞經由にて 80万寄託



伊藤仙游理事長
写真手前
が、同市中区
の同事業
団に届け
た。

中部日本書道会(名古屋
市)は7日、「年末助け合
い運動」と、200万円
を中日新聞社会事業団に
寄託した。東海3県の会員
約4000人から寄せられ
た同会の「愛の募金」で、

200万円を寄託

中部日本書道会

中日新聞 2020.12.8(火)

募金参加者ご芳名

樽本 樹邨	天野 白雲	鈴木 立齋
磯谷 凄聴	武内 峰敏	
安藤 滴水	岩田 潤流	中林 景
鬼頭 翔雲	大池 青岑	波切 童州
伊藤 仙游	片山 清洲	原田 凍谷
岡野 楠亭	加藤 矢舟	古川 昇史
加藤 裕	川崎 尚麗	松浦 華苑
松下 英風	工藤 俊朴	水谷 海越
	後藤 啓太	村瀬 俊彦
	佐野 翠峰	山内 江鶴

山際 雲峰	倉重 拜石	高須 大河	阿部 玄風	伊藤 春瑠
山中 桂山	榎田 穂園	戸谷 喜泉	阿部 睦美	伊藤 昌園
山本 雅月	近藤 素光	美苑	石川 瑞祥	伊藤 昌園
横井 宏軒	佐々木 崑邦	藤本 鷗舟	石川 明加	井深 春扇
横井 宏軒	高橋 秀箭	本間 翠眉	石川 瑞祥	伊藤 昌園
柘 英峰	武山 昂石	築瀬 舟香	石川 明加	伊藤 昌園
廣澤 凌舟	武山 昂石	本間 翠眉	石川 明加	伊藤 昌園
水野 峯翠	田中 白雲	相川 千涯	石川 明加	伊藤 昌園
安藤 秀川	坪井 景照	相崎 紫憬	石川 明加	伊藤 昌園
伊藤 昌石	富田 榮楽	青木 渚香	石川 明加	伊藤 昌園
梶山 夏舟	中島 龍溪	青木 美雲	石川 明加	伊藤 昌園
加藤 子華	中野 玉英	青木 芳翠	石川 明加	伊藤 昌園
黒田 玄夏	中村 秀峰	青山 華塘	石川 明加	伊藤 昌園
後藤 汀鶯	中村 立強	赤堀 正風	石川 明加	伊藤 昌園
近藤 浩乎	丹羽 常見	秋松 秀玲	石川 明加	伊藤 昌園
関根 玉振	長谷部 青徑	浅井 径桜	石川 明加	伊藤 昌園
土屋 陽山	堀場 凶南	浅井 紅鶴	石川 明加	伊藤 昌園
小林 露風	三神 榮軒	浅井 紫泉	石川 明加	伊藤 昌園
早川 泰山	村田 華穂	浅井 紫峰	石川 明加	伊藤 昌園
平松 紫雲	森 清暉	浅井 祥舟	石川 明加	伊藤 昌園
松永 清石	横山 夕葉	浅井 禎香	石川 明加	伊藤 昌園
伊藤 暁嶺	渡邊 笙鶴	浅井 明奈	石川 明加	伊藤 昌園
井野 吟紅	片岡 秋華	朝岡 伸	石川 明加	伊藤 昌園
今井 仙童	加藤 松翠	浅野 春陽	石川 明加	伊藤 昌園
落合 深淵	柴田 秋水	朝比奈 祥鳳	石川 明加	伊藤 昌園
神谷 美舟	杉江 秀城	安達 柏亭	石川 明加	伊藤 昌園
木戸 竹葉	杉坂 育子	足立 麗華	石川 明加	伊藤 昌園
木俣 紫香	高木 曾水	阿部 舟花	石川 明加	伊藤 昌園
山際 雲峰	倉重 拜石	高須 大河	阿部 玄風	伊藤 春瑠
榎田 穂園	戸谷 喜泉	美苑	石川 明加	伊藤 昌園
近藤 素光	藤本 鷗舟	石川 明加	石川 明加	伊藤 昌園
佐々木 崑邦	高橋 秀箭	本間 翠眉	石川 明加	伊藤 昌園
武山 昂石	武山 昂石	築瀬 舟香	石川 明加	伊藤 昌園
武山 昂石	武山 昂石	本間 翠眉	石川 明加	伊藤 昌園
田中 白雲	田中 白雲	相川 千涯	石川 明加	伊藤 昌園
坪井 景照	坪井 景照	相崎 紫憬	石川 明加	伊藤 昌園
富田 榮楽	富田 榮楽	青木 渚香	石川 明加	伊藤 昌園
中島 龍溪	中島 龍溪	青木 美雲	石川 明加	伊藤 昌園
中野 玉英	中野 玉英	青木 芳翠	石川 明加	伊藤 昌園
中村 秀峰	中村 秀峰	青山 華塘	石川 明加	伊藤 昌園
赤堀 正風	赤堀 正風	秋松 秀玲	石川 明加	伊藤 昌園
丹羽 常見	丹羽 常見	浅井 径桜	石川 明加	伊藤 昌園
長谷部 青徑	長谷部 青徑	浅井 紅鶴	石川 明加	伊藤 昌園
堀場 凶南	堀場 凶南	浅井 紫泉	石川 明加	伊藤 昌園
三神 榮軒	三神 榮軒	浅井 紫峰	石川 明加	伊藤 昌園
村田 華穂	村田 華穂	浅井 祥舟	石川 明加	伊藤 昌園
森 清暉	森 清暉	浅井 禎香	石川 明加	伊藤 昌園
横山 夕葉	横山 夕葉	浅井 明奈	石川 明加	伊藤 昌園
渡邊 笙鶴	渡邊 笙鶴	浅野 春陽	石川 明加	伊藤 昌園
片岡 秋華	片岡 秋華	朝岡 伸	石川 明加	伊藤 昌園
伊藤 暁嶺	伊藤 暁嶺	朝比奈 祥鳳	石川 明加	伊藤 昌園
井野 吟紅	井野 吟紅	安達 柏亭	石川 明加	伊藤 昌園
今井 仙童	今井 仙童	安達 柏亭	石川 明加	伊藤 昌園
落合 深淵	落合 深淵	安達 柏亭	石川 明加	伊藤 昌園
神谷 美舟	神谷 美舟	安達 柏亭	石川 明加	伊藤 昌園
木戸 竹葉	木戸 竹葉	安達 柏亭	石川 明加	伊藤 昌園
木俣 紫香	木俣 紫香	安達 柏亭	石川 明加	伊藤 昌園

内本 久園 大鐘 紫陽 太田 游山
 内山 紫泉 大上 憧花 太田 葉子
 宇野 光峰 大川 澄泉 太田 龍峰
 梅田 楊華 大木 青嵐 大竹 玄友
 梅村 鶯谷 大河戸柳光 大谷 素子
 梅村 彩香 大崎 水愁 大塚 窓月
 梅村 鉄明 大寄 露光 大塚 裕子
 江川 翠苑 大鹿 珠翠 大野 樹抱
 江口 清翠 大嶋由美子 大場 敏充
 江口 大濤 大曾根弘風 大橋 一氏
 榎本 照乃 太田 偕風 大橋 南風
 遠藤 栄久 太田 佳香 大橋 幽徑
 遠藤 紫香 太田 紫翠 大森 香鶴
 塩谷 秀蘭 太田 青華 小笠原青華
 大江 峯子 太田 由香 岡田 恵鶴

〈一宮支部〉

令和二年十二月二日(水)

中日新聞一宮総局へ支部長川浦碧濤氏

と支部次長橋

本成良氏、吉

田桃花氏が伺

い、中日新聞

社会事業団

の、「年末助

け合い運動

に」と一宮総

局長伊藤智英

氏に十万円を

寄託。



岡田 恵香 片山 紫雲 川浦 碧濤 工藤 子隼 近藤 延子 沢井 鴻風 新海 峰永 鈴木 悠水
 緒方 津苑 加地 孤握 川口 紫泉 小坂 克子 近藤 梅鶯 澤田 瑠川 菅沼 貴香 鈴木 容華
 岡田 麗峰 勝海 芝香 川口 由美 小鳥 岐香 近藤 宏子 澤田 明琴 杉浦 琇鈴 鈴木 蘭峰
 岡田 紅華 加藤 花畦 川崎 清吟 久野 天山 小鳥 真海 近藤 芳玉 三田 蕉葉 杉浦 仁美 清木美智子
 岡野 敬子 加藤 月苑 河田 聖翠 久納 竹景 小島 瑞月 近藤 由果 三間 恵翠 杉江 花城 関戸 海越
 岡本 桃香 加藤 松雲 河内 飛園 久保田清葉 小島 瑞柳 近藤 瑶華 式守 白萩 杉田 節子 関根 玉翠
 小川 岳南 加藤 渚蓮 河津 紫雪 熊崎 北咏 小島 雪舟 近藤 紀枝 篠田 祥濤 杉本 京扇 関谷 蒼玄
 小川 琴風 加藤 翠影 川出 泉麗 熊崎 秀佳 小島 初美 小島 千翠 齋藤 禹月 柴口 鶴泉 杉山 瓊川 瀬古 麗峰
 小川 秀水 加藤 夕堤 河原 彩雲 倉内 翠羽 小島 廣子 小島 厚実 柴田 華逕 鈴木 雲峰 世古口大虚
 奥田 薫苑 加藤 艸舟 河原崎坡青 倉内 翠羽 小鳥 廣子 小島 厚実 柴田 華逕 鈴木 雲峰 世古口大虚
 奥田 蘭庭 加藤 博子 河村 喜汀 倉田 清怜 小島 廣子 小島 厚実 柴田 華逕 鈴木 雲峰 世古口大虚
 奥田 三葉 加藤 碧涛 河村 抱山 倉田 珪延 小島 泰子 酒井 光華 柴田 玲甫 鈴木 花園 仙石 祥香
 奥村 碧洋 加藤 秀鴛 川本 赫汀 倉田 朝華 小塚 春苑 坂井 香泉 柴間 秀瑤 鈴木 華瑤 千田 京華
 尾寄 紫光 可児 長望 川本 大幽 倉橋 華仙 古塚 璃幸 酒井 麗月 島田 楓林 鈴木 香萩 田尾 穂昂
 長村 子鴻 金丸 翠石 神田 閨秀 倉橋 高堂 小寺 彩恵 酒瀨川香風 志水 玉華 鈴木 香鵬 高井 東里
 小澤 佳路 加納 玉珠 木澤 麗川 倉橋 松容 後藤 香波 桜井 柳絮 志水 憬堂 鈴木 紅瑤 高木 玄齊
 尾関 楊花 鎌倉 彩風 岸田 松峰 栗本 珠路 後藤 光飛 桜井 和香 清水 好流 鈴木 史鳳 高木 紅舟
 落合 玉泉 上小倉積山 木島 静月 厨 柳青 後藤 春洋 桜場 龍峰 清水 春蘭 鈴木 松厓 高木 光風
 小野 蹊泉 神谷 光園 北川 爽風 樽林 春翠 後藤 松烟 酒向 虹風 清水 翠芳 鈴木 静苑 高木 紫光
 尾之内柳雪 神谷 采邑 北野 春艸 黒川 虚宇 後藤 蘇月 佐々木宏潤 清水 澄園 鈴木 静香 高木 清雲
 小野田景月 神谷 松扇 北村 光苑 黒川 鵬霄 後藤 幽泉 笹本 汀風 清水 流香 鈴木 舟泉 鈴木 石城 高田 香坡
 小野田美晴 神谷 素景 鬼頭 豊寧 黒田 寿水 後藤 玉芙 佐藤 得道 志村 舟泉 鈴木 青楓 高桑 嚴風
 界外 玉桜 神谷 緑泉 衣川 彰人 黒野 芝香 小林 恵風 佐藤 華泉 志村 松琴 鈴木 千恵 鈴木 桂祥
 貝沼 春雨 亀井 小琴 木村 霞月 黒柳 葉舟 小林 紅琳 佐藤 寛山 志村 峯遠 鈴木 凍山 鈴木 華堂
 加古 松泉 亀山 雪峰 木村 明峰 小池 玲翠 小林 祥鶴 佐藤 晨麗 下郷 豊園 鈴木 美月 高橋 寿香
 加古 仔春 荇田 遵松 久徳 蓬香 小宇佐久美 小宇 理子 近藤 翠香 佐藤 水香 下村 汀柳 鈴木 美翠 高橋 栖雲
 籠瀬 提花 川合 玄鳳 日下部みゆき 小宇 富美子 近藤 翠嶺 佐藤 清華 東海林路子 鈴木 美豊 高橋 竹香
 笠原喜美江 川合 採星 草野 慧泉 甲谷富美子 近藤 翠嶺 佐藤 清華 東海林路子 鈴木 美豊 高橋 竹香
 梶山 盛涛 河合 醉光 葛谷 恵園 幸村 溪雪 近藤 晴翠 真田 九龍 白木 紫香 鈴木 真理子 高松 秀翠
 片原 秀園 河合 翠山 工藤 玉州 河村 黄園 近藤 青洮 佐山 美楓 白柳ゆかり 鈴木 美都子 滝 白雅

山崎	山口	山口	山口	山口	山口	山岸	山川	山川	山内	山内	山内	山内	山内	山内	山崎
紅影	律舟	幸子	裕子	竹汀	蕙世	邦山	孝子	昌泉	窓楓	香霖	和之	和之	和之	和之	紅影
山田	山田	山田	山田	山田	山田	山田	山田	山田	山田	山田	山田	山田	山田	山田	山田
流芳	有華	白陽	白陽	白陽	白陽	白陽	白陽	白陽	白陽	白陽	白陽	白陽	白陽	白陽	白陽

吉田	吉田	吉田	吉田	吉田	吉田	吉田	吉田	吉田	吉田	吉田	吉田	吉田	吉田	吉田	吉田
美影	桃花	江楓	光波	香雪	劉石	清軒	清軒	清軒	清軒	清軒	清軒	清軒	清軒	清軒	清軒
美影	桃花	江楓	光波	香雪	劉石	清軒	清軒	清軒	清軒	清軒	清軒	清軒	清軒	清軒	清軒
美影	桃花	江楓	光波	香雪	劉石	清軒	清軒	清軒	清軒	清軒	清軒	清軒	清軒	清軒	清軒

石川	石川	石川	石川	石川	石川	石川	石川	石川	石川	石川	石川	石川	石川	石川	石川
玲香	麗香	紫鳳	紫鳳	紫鳳	紫鳳	紫鳳	紫鳳	紫鳳	紫鳳	紫鳳	紫鳳	紫鳳	紫鳳	紫鳳	紫鳳
玲香	麗香	紫鳳	紫鳳	紫鳳	紫鳳	紫鳳	紫鳳	紫鳳	紫鳳	紫鳳	紫鳳	紫鳳	紫鳳	紫鳳	紫鳳
玲香	麗香	紫鳳	紫鳳	紫鳳	紫鳳	紫鳳	紫鳳	紫鳳	紫鳳	紫鳳	紫鳳	紫鳳	紫鳳	紫鳳	紫鳳

今村	今村	今村	今村	今村	今村	今村	今村	今村	今村	今村	今村	今村	今村	今村	今村
古雅	古雅	古雅	古雅	古雅	古雅	古雅	古雅	古雅	古雅	古雅	古雅	古雅	古雅	古雅	古雅
古雅	古雅	古雅	古雅	古雅	古雅	古雅	古雅	古雅	古雅	古雅	古雅	古雅	古雅	古雅	古雅
古雅	古雅	古雅	古雅	古雅	古雅	古雅	古雅	古雅	古雅	古雅	古雅	古雅	古雅	古雅	古雅

尾崎	尾崎	尾崎	尾崎	尾崎	尾崎	尾崎	尾崎	尾崎	尾崎	尾崎	尾崎	尾崎	尾崎	尾崎	尾崎
涼舟	涼舟	涼舟	涼舟	涼舟	涼舟	涼舟	涼舟	涼舟	涼舟	涼舟	涼舟	涼舟	涼舟	涼舟	涼舟
涼舟	涼舟	涼舟	涼舟	涼舟	涼舟	涼舟	涼舟	涼舟	涼舟	涼舟	涼舟	涼舟	涼舟	涼舟	涼舟
涼舟	涼舟	涼舟	涼舟	涼舟	涼舟	涼舟	涼舟	涼舟	涼舟	涼舟	涼舟	涼舟	涼舟	涼舟	涼舟



〔西三河支部〕
 年末助け合い
 10万円を寄託
 中部日本書道会支部
 中部日本書道会西三河支部(西尾市)の加藤松雲支部長(左)と写真(中)の役員三人が七日、中日新聞岡崎支局を訪れ「恵まれない方々に役立ててほしい」と中日新聞社会事業団の年末助け合い運動に10万円を寄託した。「チャリティー愛の募金」として支部会員から寄せられた。

中日新聞 2020.12.8(火)

青木	青木	愛澤	渡辺	渡辺	渡辺	渡辺	渡辺	渡辺	渡辺	渡辺	渡辺	渡辺	渡辺	渡辺	渡辺
来夢	美洲	珠翠	悠記子	月潭	慶心	鶴山	房江	紫篁	紫篁	紫篁	紫篁	紫篁	紫篁	紫篁	紫篁
来夢	美洲	珠翠	悠記子	月潭	慶心	鶴山	房江	紫篁	紫篁	紫篁	紫篁	紫篁	紫篁	紫篁	紫篁
来夢	美洲	珠翠	悠記子	月潭	慶心	鶴山	房江	紫篁	紫篁	紫篁	紫篁	紫篁	紫篁	紫篁	紫篁



〔東三河支部〕
 年末助け合い運動
 会員の善意10万円
 中部日本書道会支部
 中部日本書道会東三河支部は七日、中日新聞社会事業団の「年末助け合い運動」に寄付する10万円を本紙豊橋総局に寄託した。寄付金は東三河支部の役員から募った。(林田虎峰支部長と古川侃司(右))支部次長、村井康山支部次長が豊橋総局を訪れ、伊東誠総局長に寄付金を手渡した。写真。

中日新聞 2020.12.8(火)

川合	碩山	神戸	春谷	國廣	寿仙	小早川	恵祥	笹本	菜月	清水	由美	鈴木	青華	高松	彩月	鶴口	夏菜
河合	澄香	神戸	笙詩	久野	生麗	小林	敬子	笹山	万喜子	志村	玲香	鈴木	漱龍	高山	さち子	鶴見	香翠
川北	博子	岸田	昌子	久保田	香穂	小林	雪晨	佐治	空谷	下村	佳風	鈴木	千晴	滝本	柳畑	鶴見	蒼雲
川口	花園	貴島	小舟	熊谷	弦謠	小林	千鶴	佐藤	悦子	庄司	梨陽	鈴木	桃玲	竹内	重則	鶴見	珀翠
川口	芳雲	岸本	紫翠	熊崎	香苑	小林	晴子	佐藤	恵園	庄野	照香	鈴木	誠人	竹内	深風	寺尾	青波
川澄	良子	北浦	千鶴	久米	水聲	小林	洋子	佐藤	恵順	白井	美翠	鈴木	明海	竹内	翠邱	寺岡	春蘭
川瀬	実咲	北村	玉風	倉田	果苑	小松	月泉	佐藤	幸泉	白塚	山城	鈴木	明蓬	竹内	敏夫	寺島	明子
川村	鶴堂	木野	瀬陽光	栗木	美楓	小松	翠堂	佐藤	紅蘭	神藤	恵翠	鈴木	明蓬	竹内	芳華	寺田	祐峰
河村	一雄	木村	輝扇	栗本	清芳	子安	杏庭	佐藤	彩柳	神藤	紫穂	須田	静波	武川	桃徑	寺澤	茂子
河村	美翠	木村	和象	栗山	幽香	古家	野弥生	佐藤	青耀	杉浦	悦子	須田	白城	竹下	正樹	土井	秀栖
河村	友紀	木本	美智子	黒岩	翠華	小山	峯雲	佐藤	敬頭	杉浦	薫水	隅田	玉枝	竹本	景鳳	藤堂	弘風
川村有紀奈		金原	恭江	黒柳	知里	近藤	明彦	佐藤	桃華	杉浦	敬山	関	春香	竹澤	扇華	遠山	翔雅
川本	青柎	久世	たか子	棄名	孝枝	近藤	瑛月	佐藤	典子	杉浦	幸子	関	翠虹	田中	桜花	遠山	正幸
神田	酔月	沓名	典子	小石	順	近藤	鶯雅	佐藤	芳泉	杉浦	純子	関	吟香	田中	華城	遠山	柳恵
				小泉	路子	近藤	香月	佐藤	爽翠	杉浦	芳苑	長尾	珠泉	中野	秋石	新津	美泉
				小出	和香	近藤	清月	佐藤	青草	杉浦	陽	中野	幸聲	中野	照子	西尾	孤山
				郷	瑤春	近藤	芳玉	佐藤	美恵子	杉浦	陽	中野	翠山	中野	美恵子	西川	樹顛
				甲谷	千樹	近藤	嘉江	塩野	谷厚志	杉田	樹石	大田	詩織	中川	瑞風	長畑	清楓
				鴻巣	玉兔	近藤	玲翠	志知	隆道	杉本	錦楊	中川	玲波	中川	美翠	中村	杏華
				神山	彩華	坂井	虹輝	志津野	穂夏	杉本	扇鈴	中川	朝煙	中村	蕙風	西川	允子
				越川	瑞江	酒井	悠泉	篠田	仰信	杉山	恵子	中川	玲波	中村	紅苑	西川	晴江
				小島	華扇	榊原	観峰	篠田	瑞芳	谷川	花影	中川	美峰	中村	彩香	西田	康華
				小島	幸波	榊原	洸苑	篠原	久祥	谷川	青崖	中島	安奈	中村	翠月	西山	美翔
				小島	瑞香	榊原	悠園	柴田	恵美子	高田	秀苑	中島	千里	中村	眸	西脇	和子
				小島	静珠	桜井	花淞	柴田	恵子	高橋	江翠	中島	菊香	中村	鸞邑	西脇	聖園
				小島	大立	桜井	光雲	柴田	真由美	高橋	翠葉	中西	正毅	中山	芳泉	丹羽	崑代
				後藤	煌雪	櫻井	春香	柴田	瑞香	高橋	千代子	中根	伸江	夏目	美沙	丹羽	さとみ
				後藤	智明	佐々木	汀安	鈴木	京子	高橋	美春	長野	榮信	成田	尚子	丹羽	博美
				後藤	柳月	佐々木	博山	鈴木	祥翠	高橋	義一	中野	滋	成瀬	翠月	庭田	静苑
				小西	美紀	笹本	都和	清水	眞美	鈴木	眞壽	高橋	義一	坪山	香泉	永井	静景



〈濃飛支部〉
 中部日本書道会濃飛支部は16日、中日新聞社会事業団の「年末助け合い運動」に10万円を寄託した。毎年、年末の取り組みで、飛騨地域と東濃地域の支部会員から寄付を募った。三野島凌雲支部長（写真）と阪田華香経理部長（同）が中日新聞高山支局に持参した。

中日新聞 2020.12.17(木)

〈北勢支部〉
 令和二年十二月一日(火) 中日新聞四日市支局へ伊藤伸亭支部長と高橋華堂支部次長が伺い、「年末助け合い運動」に」と会員の皆様から寄せられた「愛の募金」より十万円を後藤厚三支部長に寄託しました。



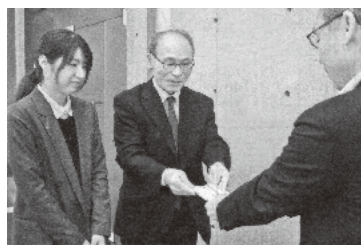
永井	玲苑	中野	秋石	新津	美泉
長尾	珠泉	中野	聲石	西尾	孤山
中垣	幸聲	中野	照子	西尾	雅子
中川	翠山	中野	美恵子	西川	樹顛
中川	瑞風	長畑	清楓	西川	春風
中川	玲波	中村	蕙風	西川	允子
中川	百合子	中村	紅苑	西川	晴江
中川	美峰	中村	彩香	西田	康華
長澤	美峰	中村	彩香	西山	美翔
中島	安奈	中村	翠月	西山	和子
中島	千里	中村	眸	西脇	聖園
中田	菊香	中村	鸞邑	西脇	聖園
永田	正毅	中山	芳泉	丹羽	崑代
中西	伸江	夏目	美沙	丹羽	さとみ
中根	翠栄	成田	尚子	丹羽	博美
長野	榮信	成瀬	翠月	庭田	静苑
中野	滋	成瀬	伸芳	二和田	通代

根津 郷巴	長谷川瑞鳳	林	華香	坂	霞汀	平松 和子	穂積 清華	松原 流恵	三輪 彩光	安田 由琳
根谷 捷子	長谷川積翠	林	華静	半田	幸瑩	平松千代子	英翠	松本 春楊	三輪 蘇生	八谷 白仙
野村 怜光	長谷川緑光	林	溪舟	坂野	幸子	廣瀬 玉樹	春陽	梁川 美舟	誠香	梁川 美舟
野尻 紀子	波多野朱芳	林	皓月	坂野みゆき	幸子	廣野 陽風	清溪	村上 澄映	柳瀬 緑風	柳瀬 緑風
野田 江泉	服部 和子	林	尚志	日置 康苑	堀	深津 陽雪	梅肇	村上 貴水	矢野 棠里	矢野 棠里
野田 翠香	服部 修江	林	翠竹	彦坂 翠花	堀	深谷 朝美	美洲	村瀬 紫苑	村瀬 紫苑	村瀬 紫苑
野田千津子	服部 瑞花	林	澄江	等 綾雪	堀	深谷 紅蘭	孝子	村瀬 松園	村瀬 松園	村瀬 松園
野々垣煌玉	服部 稻華	林	成清	日比野弘心	本田 吉華	三沢 桃紅	右高 夏代	村瀬 上氏	山内 清華	山内 清華
野々川翠扇	花井 麦雲	林	節香	日比野汀華	前川 敦子	水越 鈴雪	右高 三郎	村瀬 華雪	山内 麗花	山内 麗花
野村 繁子	花井 蘭徑	林	孝湖	福島 翠苑	前野 英子	水谷 君代	三沢 桃紅	村田 華雪	山内 麗花	山内 麗花
野村 樹恵	馬場 景子	林	柏亭	福原 秋冷	前野 秋豊	水谷 玉汀	水越 鈴雪	村田 華雪	山内 麗花	山内 麗花
野村 小鏡	馬場 紅雲	林	由美	福森 逢年	牧野 瑞風	水谷 廣風	水越 鈴雪	村田 華雪	山内 麗花	山内 麗花
橋本 佳静	浜島 緑風	林	緑香	福山 恵山	增井 希	水谷 静香	右高 三郎	村瀬 上氏	山内 麗花	山内 麗花
橋本美恵子	浜野 春瑛	原	香風	藤井 和彦	増井 希	水谷 静香	右高 三郎	村瀬 上氏	山内 麗花	山内 麗花
長谷川華星	早川扶美子	原	彩霞	藤木由美子	柘田 蘭香	水谷 鳳月	右高 三郎	村瀬 上氏	山内 麗花	山内 麗花
長谷川治光	早川 緑園	原	葵泉	藤田 孝雲	町田 清芳	水野 昌花	右高 三郎	村瀬 上氏	山内 麗花	山内 麗花
長谷川春汀	早川 林花	原	峰葉	藤田 美翠	松井 雲海	水野 白映	右高 三郎	村瀬 上氏	山内 麗花	山内 麗花

〔中南勢支部〕

令和二年度支部チャリティ報告

十一月三十日、津市にある中日新聞三重総局事業部に、会計横山香雨、谷鴻風が訪問しました。年末助け合い運動、愛のチャリティ義援金を持参し、少しでもお役に立てればとお伝えし、お渡し致しました。



堀田 智洋	松原 好子	宮部政代美	安田 春麗	山之内春洋	吉成 香映
細川 柳舫	松原 楽朋	宮地八千代	安田 彩霞	山中みね子	吉田 蘭生
星野 律花	松永 秋花	宮田 秋鶴	安井 翠谷	山中 信子	吉田 千津枝
星野 仙燁	松永 紫豊	宮澤 煌泉	矢島 汐風	山田 陽水	吉田 聖汀
紅谷 碧水	松田 典子	宮崎 芳川	八木 治代	山田 清翠	吉田 暁彩
古橋 勝櫻	松田 清美	宮崎 帆舟	八木 清晴	山田 祥恵	吉田 鏡華
古橋 紀風	松田 玉芳	宮崎 弘園	八木 恵染	山田 西寧	吉川 富穂
船橋 幽泉	松岡 瓊玉	宮尾 清峰	諸富 瑞青	山田 光芳	吉川 桃香
舟橋 風苑	松岡 輝峰	見並 春翠	森山 溪花	山田 華苑	吉川 珠翠
藤原加代子	松枝 翠苑	源口 貴子	守永 藍麗	山下 華月	吉兼 理樹
藤原 明子	松浦 華雪	溝口 春華	森下 美影	山崎 春枝	横山 香雨
藤村 瓊香	松居 光子	水野 百花	森下千代子	山崎 典子	横山 杏歌
藤戸 絢春	松居 玉華	水野 白映	森岡 英子	山口 典子	横山 香雨
藤田 美翠	松井 雲海	水野 昌花	森 真由美	山口 如泉	山本 瑶華
藤田 孝雲	町田 清芳	水野 紅翠	森 芳彩	山口 鈴代	山本 種子
藤木由美子	柘田 蘭香	水谷 鳳月	森 富華	山口 紅鶴	山本 昌峰
藤井 和彦	増井 希	水谷 静香	森 尚香	山口 光華	横江 昌峰
福山 恵山	牧野 瑞風	水谷 サト子	森 環翠	山口 含烟	横江 杏歌
福森 逢年	牧野 秋陽	水谷 廣風	室賀 芳艶	山口 晶子	横山 杏歌
福原 秋冷	前野 秋豊	水谷 玉汀	村山 菖苑	山川 節子	横山 杏歌
福田 祥光	前野 英子	水谷 君代	村知 清蘭	山川 桂花	山本 小谿
福島 翠苑	前川 敦子	水越 鈴雪	村田 華雪	山内 麗花	山本 双剣
福井 笙耀	本田 吉華	三沢 桃紅	村瀬 上氏	山内 清華	山本 種子
深谷 紅蘭	堀田 孝子	右高 夏代	村瀬 松園	山内 昂波	山本 瑶華
深谷 朝美	堀 美洲	右高 三郎	村瀬 紫苑	矢吹 喜泉	山本 昌峰
深津 陽雪	堀 梅肇	三浦 節子	村瀬 貴水	柳瀬 棠里	山本 双剣
廣野 陽風	堀 清溪	三浦 巖芳	村上 澄映	梁川 緑風	山本 昌峰
廣瀬 玉樹	堀 春陽	真野 桃華	村上 誠香	梁川 美舟	山本 昌峰
平松千代子	洞 英翠	松本 春楊	村上 蘇生	八谷 白仙	山本 昌峰
平松 和子	穂積 清華	松原 流恵	三輪 彩光	安田 由琳	山本 昌峰

〔岐阜支部〕

年末助け合い義援金 中部日本書道会、岐阜支部の皆様からの善意を、十二月八日(火)に中日新聞社岐阜支社に、社会福祉へと10万円を支部長坪井景照、早川修事務局担当が届けました。



山本 小谿	吉村佳代子
山本 双剣	芳村 清苑
山本 種子	吉村 星光
山本 瑶華	吉村真由美
横江 昌峰	米田 啓子
横江 杏歌	米津 美華
横山 香雨	若松 翠泉
吉兼 理樹	脇田 玉波
吉川 珠翠	鷺野 嘉子
吉川 桃香	渡瀬 大麦
吉川 富穂	渡辺 桂山
吉田 鏡華	渡辺 香蘭
吉田 暁彩	渡辺 祥令
吉田 聖汀	渡邊 水香
吉田 千津枝	高瀬 康春
吉田 蘭生	
吉成 香映	

(十二月二十四日日本部到着分まで掲載)

第71回 中日書きぞめ展

会期 令和3年3月13日(土)～3月14日(日)

会場 ナディアパーク2階アトリウム 名古屋市中区栄三丁目18-1

授賞式 令和3年3月14日(日) 午後2時 ナディアパーク 3階 デザインホール

書道教室推薦看板申請制度のご案内

本会では、書の勉強を希望する人々のために、また書道の優れた指導者を、広く一般の人々に紹介することを目的として書道教室等の推薦制度を実施いたしております。

この制度は、書道教室を経営する会員の先生方を側面よりバックアップするもので、教室または指導者に対して推薦証と推薦看板をひと組として、希望される会員に有料で交付するものであります。(左記参照)

交付にあたっては、この制度の内容から、誰にでも無条件というわけにはまいりません。

資格者は本会の正会員です。

ただし、準会員の方は、中日展に出品されている方及び本会が主催する書道教育研修会を受講された方に限ります。

記

○書道教室推薦証等交付申請書 一通
(申請書は本部へご請求下さい)

○推薦証(別記)

○推薦看板(写真)

○アクリル製、巾15cm×長さ60cm、指導者名を記入いたします。

○申込資格

本会正会員及び

選考会で認められた準会員

○推薦手数料 二五、〇〇〇円

(承認後ご連絡)

絡いたします

ので振替用紙

にてお振込み

下さい。

担当 教育部

推薦証

右の者は書道並びに書写教育の優れた指導者として認められるのでここに推薦する

公益社団法人 中部日本書道会推薦教室

中部日本書道会書道教室 推薦証等交付申請書

令和 年 月 日

公益社団法人 中部日本書道会理事長 殿

申請者 住所 氏名 (氏名) (電話番号) ()

下記の通り書道教室等の推薦を受けたいので、手数料を添えて申請します。

教室名	
教室住所	
ふりがな	
指導者名 (申請者名)	中日書道展 格 賞
備考	

(注) 指導者の書歴は裏面のとおりで

受付年月日 令和 年 月 日

交付年月日 令和 年 月 日

交付番号

※ご質問等は本部事務局迄連絡下さい。

会費未納の方へお願い

年度末も間近となってまいりました。令和二年度会費未納の方は、至急お納め下さい。(正会員及び準会員の方で未納の方) 本部会員は、郵便振替 00890-6-14420。支部会員は、各支部会計担当者にご連絡下さい。

住所変更、改姓、改号、社中変更等

変更事項は本部までご一報下さい。

052 (583) 1900

訃報

心より哀悼の意を表し、ご報告申し上げます。(厚生部)

○11月6日

正会員 木戸長山氏 享年86

○11月17日

評議員 大曾根弘風氏

○12月9日

参与 鈴木瑞象氏 享年81

○12月13日

評議員 上松早苗氏 享年87

○12月26日

評議員 水谷敏子氏 享年82

○9月26日

評議員 溝口大仙氏 享年82

社中展・個展のご案内

○第四十二回墨友会書作展

代表 加藤子華

会期 令和三年三月二十六日(金)～二十八日(日)

会場 四日市市立博物館 四階特別展示室



あとがき

明けましておめでとうございます。令和三年の年明け、第一九九号をお届け致します。昨年、コロナ禍の中で中止となりました第七十回記念中日書道展の後、残りの事業開催に不安がございましたが、万全のコロナ対策の上、書道教育研修、書の匠展・寿展、公開講座が、無事に開催されましたことは大変喜ばしいことでした。各事業のご報告をご覧下さい。

本年は、役員一同、第七十回の記念展が、無事に開催出来るよう万全の対策・方法を考慮して出品規定を作成しました。本号に抜粋を掲載致しております。

二月中には、出品表など発送の予定です。記念展が成功裡に開催出来ますよう、会員皆様には、格別のご協力をお願いします。

時節柄、お身体ご自愛下さいませ。(編集部)

ホームページアドレス メールアドレス

http://www.cn-sho.or.jp info@cn-sho.or.jp